

# MWiC レバー式バイトセンサ 説明書

2025/3/6 Ver. 02

ティーフォニクス合同会社

T. Tokuda

info@teefonics.jp

The logo for Teefonics, featuring the word "Teefonics" in a white, stylized, cursive font. The text is set against a black background that is shaped like a trapezoid, wider at the top and narrower at the bottom, creating a sense of depth and shadow.

## 1. MWiCレバー式バイトセンサの動作条件等

- MWiCレバー式バイトセンサを利用するためには、**MWiC本体のファームウェアバージョンを8.57以降にして頂く必要**があります。
- MWiCファームウェアファイルおよび更新手順については、**ユーザー専用サイト(要パスワード)**よりアクセス頂くことができます。
- 交換手順については、ユーザー専用サイトの以下のファイル**(要パスワード)**をご参照下さい。

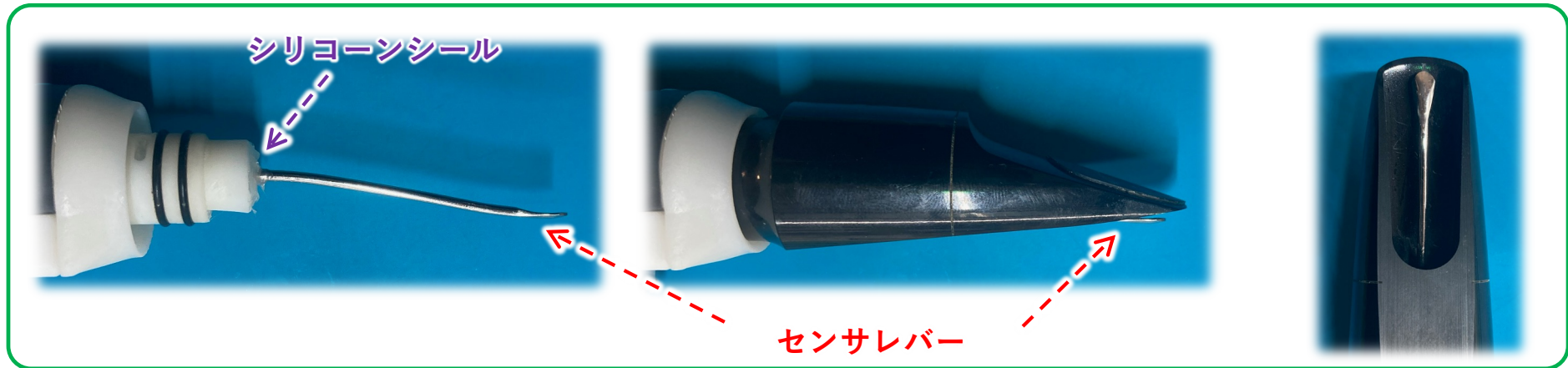
[https://teefonics.jp/file\\_storage/MWiC\\_Instruction\\_ReplaceMPUnit.pdf](https://teefonics.jp/file_storage/MWiC_Instruction_ReplaceMPUnit.pdf)

- レバー式バイトセンサユニットでは以下の設定項目が不要になるため、無効化されます。

**08 Bite-1のB.Compensate設定**：レバー式ではブレス⇒バイトクロストークが生じないため

**08 Bite-1のCalib.Trig設定**：レバー式ではセンサ値ドリフトがほとんど生じないため

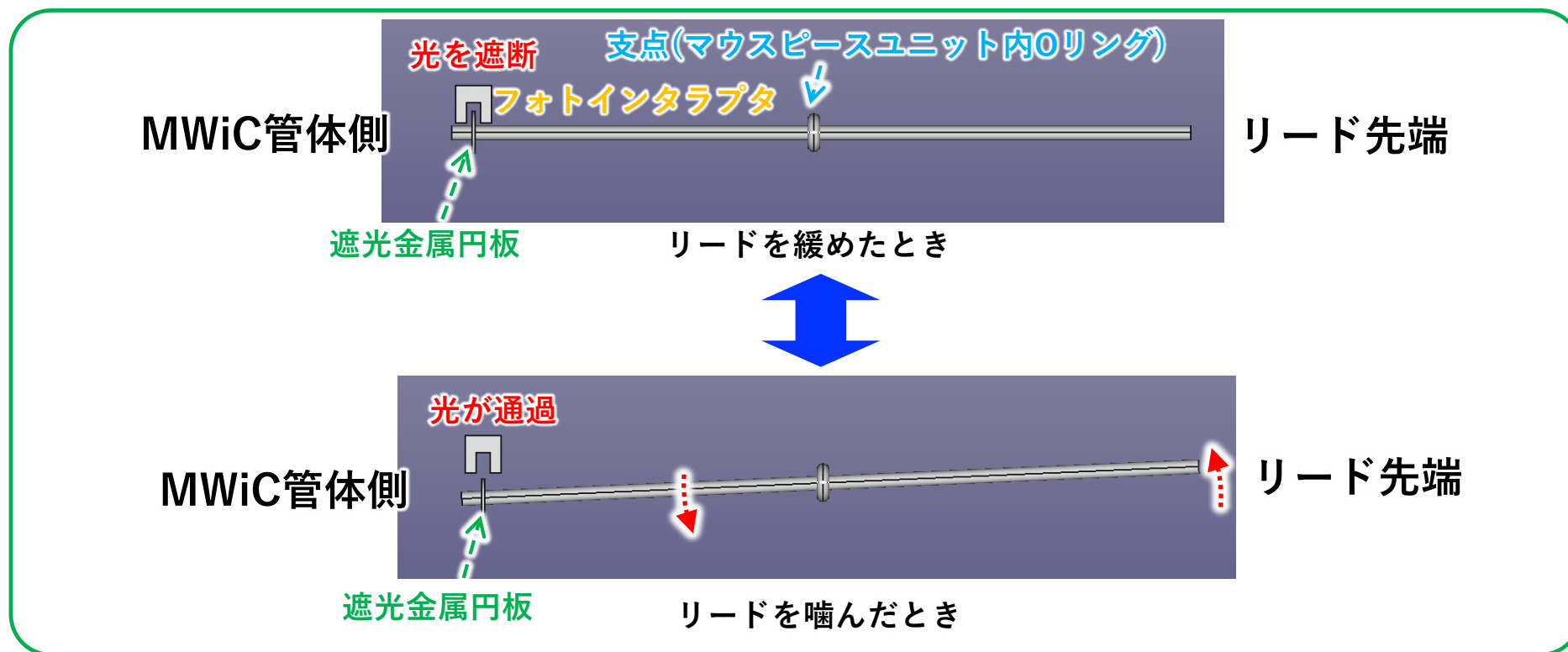
## 2. MWiCレバー式バイトセンサの概要



レバー式(光学式,リリコンと同じ)バイトセンサを搭載したアルトMP用ユニットです。以下の特徴があります。

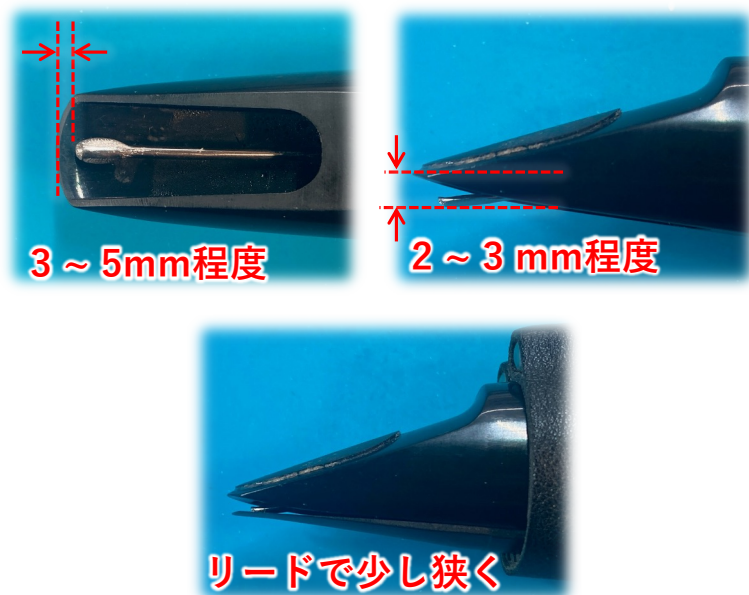
- ・ Reed Bendモードでの演奏性向上を目指したものです。Swingモードの演奏性は従来型(バルーン式やソフトマウスピースタイプ)に劣る場合があります。
- ・ バルーンの弾力感がないことにより、特に**アップベンドでは音程コントロールがバルーンより難しくなります。ダウンベンドオンリーなら使い勝手は悪くありません。**噛み心地はバルーンよりレバーのほうがサックスに近いとのことです。
- ・ バルーン式と異なり、**センサのゼロ点ずれの心配をしなくて良い、というメリット**があります。
- ・ センサの長さを変えられない(曲げることは可能)なので、マウスピースの選択肢が限られます。ヤマハ4C以外のマウスピースをご利用の場合など、ご指定があれば**シリコンシール(図中)**の接着をせずに納品致します。

### 3. MWiCレバー式バイトセンサのメカニズム



- ・ マウスピースのリードを噛むとレバーが**支点(Oリング)**を中心に回転し、**フォトインタラプタ** (LEDとフォトセンサを組み合わせたセンサ素子)のギャップ内の**③遮光金属円板**が移動します。
- ・ リリコンと本質的に同じメカニズムを実現しています。

## 4. 通常調整の方法



望ましい状態



リードを指で押さえると  
の値が800以上大きくなる

MWiC画面でのセンサデータ(右図)が、リード位置によって800以上(1200以上が望ましい)変化するようになっていれば正常動作します。

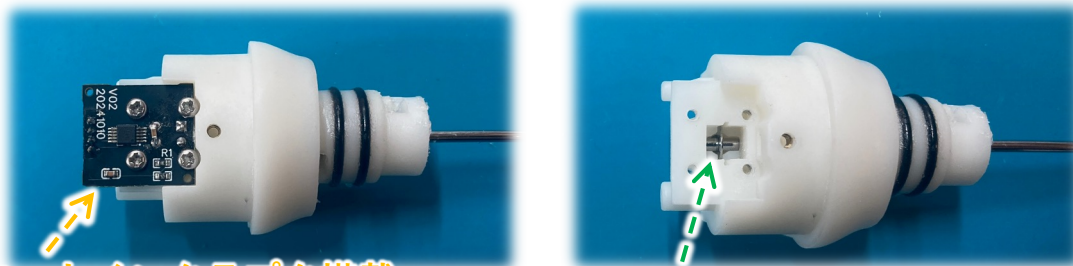
センサレバーを手で曲げて調整します。左の図が大まかなレバー先端の位置です。なおデータが得られることが優先で、厳密にこの位置である必要はありません。

# 推奨外マウスピースへの 対応等のための調整方法

以降に紹介する方法は弊社として推奨するものではありませんが、もし推奨マウスピース以外をお使いになりたい場合にはお試してください。原則としてこの作業により保証対象外となることはありません。

**最初からこの作業を行う予定の場合にはご購入時にお知らせいただければシーラントで固めずに納品致します。**

## 5. MWiCレバー式バイトセンサ各部の構造



フォトインタラプタ搭載  
センサ基板

遮光金属円板

リード先端

センサバーストッパー

**重要ポイント！**  
センサバーが回転したり抜けたり  
しないようにストッパーが  
組み込まれています。



## 6. シーラント(レバー長さ調整時には除去が必要)



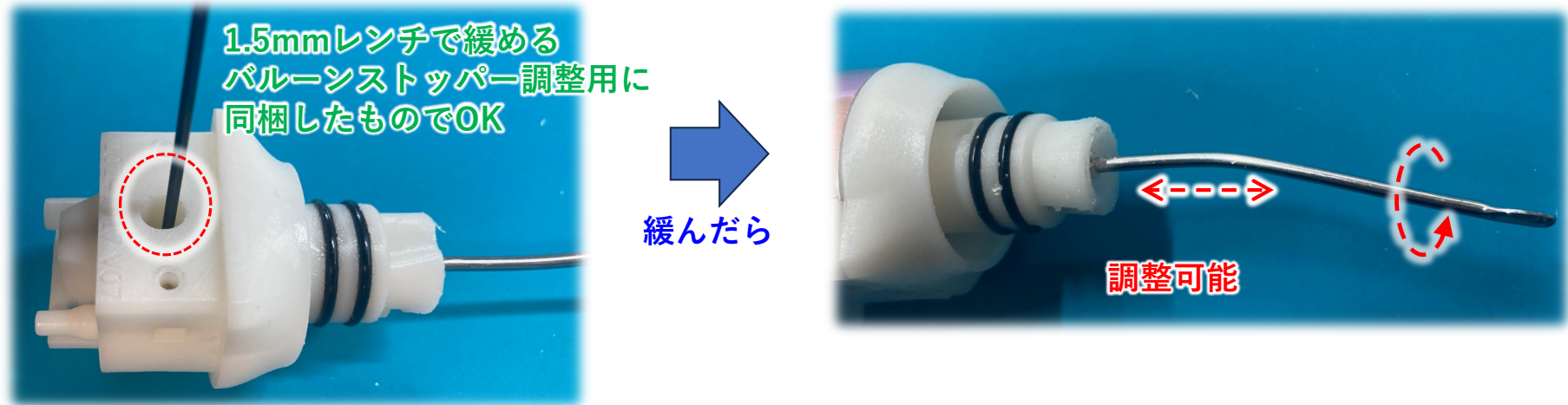
レバーの出口が一般向けシーラント(バスコークもしくはバスボンド等)で固定されています。このシーラントは以下の役割があります。

- ・ 長期的防水(テスト吹きくらいなら内部のOリングの防水で大丈夫です)
- ・ レバーの弾力感の決定(内部にバネが入っていますが、シーラントによりゴムの反発が追加されます)

通常はバイトセンサレバーを曲げる調整でOKですが、推奨マウスピース(ヤマハ4C)以外を使いたい場合などは、まずはシーラントを除去してから次ページの調整を行ってください。調整が終わりましたら、十分に乾燥した状態で、適当なシーラント(ユーザー様でご入手下さい)を塗って固めてください。



## 7. レバー長さ調整方法



- ① 1.5mm 六角レンチでストッパーのイモネジを緩めます
- ② レバーの位置を調整します。このとき抜きすぎると内部の遮光円板からレバーが外れるのでセンサーとしての機能を果たさなくなります。それが長さを伸ばす限界です。
- ③ レバーが抜けても再挿入できるように設計してありますが、どうしても入らなければ弊社にお知らせ下さい(基板を外せば直せますのでご自身で行って頂いても結構です)。
- ④ 調整が完了したらレバーの回転方向にも注意しながらストッパーを締め付けて、レバーの動きがスムーズであることを確認します。

最後のページです